

## 法定健診とがん検診は別物！がん検診の導入を

### 企業でよく行われている定期健康診断

労働安全衛生法に  
基づき事業者が  
実施する法定健診  
(労働者全員、年1回)

- ・問診（既往歴、業務歴、喫煙歴、服薬歴）
- ・身体計測（身長、体重、腹囲）
- ・視力、聴力、血圧
- ・尿検査 ・胸部X線検査
- ・喀痰検査（医師の判断に基づき、省略可）
- ・血液検査 ・心電図検査
- ・自覚症状及び他覚症状の有無の検査

高齢者医療確保法に基づき医療保険者が実施する特定健診  
(40～74歳加入者、年1回)

### がん検診

がんで亡くなる方を減らすために、有効ながん検診として、日本では、以下の内容が推奨されています。(平成29年6月現在)

検診(検査内容)	対象	検診の間隔
胃がん検診※ 胃がん検診※ 胃部X線検査 胃内視鏡検査	50歳以上男女	2年に1回
肺がん検診(胸部X線検査+ハイリスク者喀痰細胞診) 大腸がん検診(免疫便潜血検査(検便)二日法)	40歳以上男女	1年に1回
乳がん検診(マンモグラフィ) 子宮頸がん検診(細胞診)	40歳以上女性 20歳以上女性	2年に1回

※胃がん検診については、当分の間、胃部X線検査を40歳以上の男女に年1回実施しても差し支えないとしています。

## 実施していないがん検診が1つ以上あった企業の方

◆がん検診の導入方法は主に3パターン。あなたの会社はどのタイプですか？

職場でがん検診の受診体制を整えることができる

職場でがん検診を  
実施するのは難しい…

①職場の健診項目に  
追加

②健康保険組合が提供する  
健診等との同時実施

③区市町村が提供する  
がん検診の受診を推奨

## 職場のがん検診の推進には、 経営者であるあなたの力が必要です

◆経営者のみなさんの理解が、企業のがん検診推進の原動力！

あなたの企業で、積極的にがん検診受診の取組を行っている理由は？

**第一位** 経営者のがん検診等の受診の重要性を理解している 51.8%

**第二位** 健康保険組合の意識が高く、連携した取組を求められた 42.8%

**第三位** 企業が社会的責任の一つとしてがん検診等の実施を捉えている 40.4%

出典：東京都がん予防・検診等実態調査（平成25年度）

◆経営者のみなさんも、受診促進に前向きです！

・企業としてがん検診の受診促進に取り組む必要がある 88.3%

・実際に取り組んでいる、今後取り組みたいと考えている 89.7%

出典：東京法人会連合会「全国法人会連合会法人会アンケート調査システムによる都内経営者層への調査結果」（平成25年度）

◆実際に受診を促進している企業では、このような取組を行っています！

### 社内の風土作り

- ・日頃より経営者のみなさん自らが従業員にメッセージを発信
- ・経営理念や経営計画、CSR報告書等に、健康に配慮した経営について掲載
- ・管理職から部下へ受診の声掛けや未受診者のフォローアップを実施

### 制度や体制の整備

- ・就業時間内の検診受診を許可するなど、従業員が受診しやすい環境の整備
- ・婦人科系の追加など、検診メニュー等の拡充
- ・企業が検診費用を一部負担するなど、福利厚生の一環として検診費用補助制度の導入

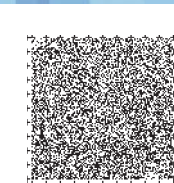
経営者のあなたの意識・行動が、従業員の未来を守ります！  
今すぐがん検診受診の推進を！

平成29年6月発行 登録番号 (29) 32  
東京都福祉保健局保健政策部健康推進課成人保健担当 03(5321)1111(内線)32-862  
編集協力 株式会社キャンサーキャン



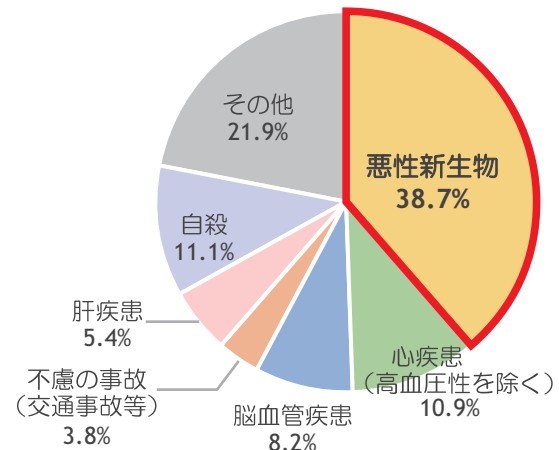
東京都福祉保健局

# 経営者のあなたへ 従業員の命を守る 職場のがん検診



## 働き盛り世代のがん患者が増えています

40-59歳の死因割合（平成27年）



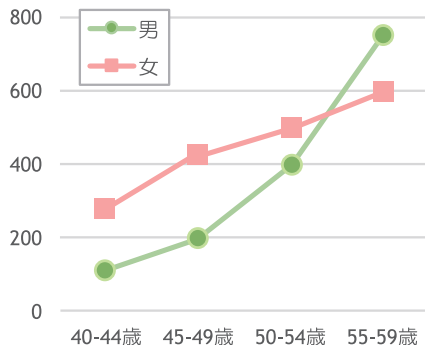
出典：厚生労働省（平成27年、人口動態統計〔東京都〕）

働き盛り世代の死因原因第一位は

**がん**

## 働き盛り世代の全がん罹患率（平成24年）

（10万人対）



出典：国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策情報センター（平成24年、地域がん登録全国推計によるがん罹患データ〔全国〕）

年齢とともにがんになるリスクも上がります

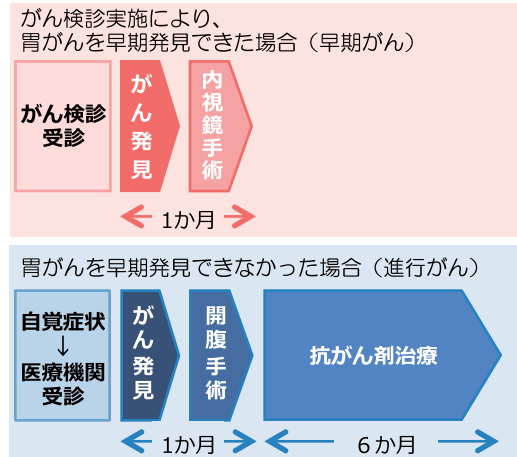
## 従業員規模に関わらず、定年延長に伴い、がんになる従業員は更に増えていきます



出典：国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策情報センター（平成22年、地域がん登録全国推計によるがん罹患データ〔全国〕  
厚生労働省（平成26年、賃金構造基本統計調査〔東京都〕）  
算出方法：賃金構造基本統計調査から算出した、企業規模毎の性・年代別（25歳以上）の従業員割合を基に、仮定した従業員数における性年代別構成を割り出し、平成22年の5歳階級別がん罹患率を掛け合わせ、定年が60歳の場合と65歳の場合を想定した一社当たりのがん罹患率を算出。（小数点第二位以下四捨五入）

## がん検診を行うことにより、大切な従業員の命を守ることができます

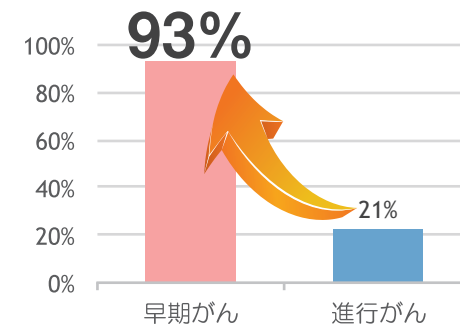
がん発見時の進行度合いによる治療期間の比較（モデルケース）



注）がんの治療法や治療スケジュールには、個人差があります。症状が出ている場合には、検診の機会を待たず、医療機関の早期受診をお勧めいたします。

症状が出る前に早期発見できれば治療も比較的簡単で早めに職場復帰できます

## 全がんの5年相対生存率



出典：公益財団法人がん研究振興財団

（がんの統計'16 全国がん（成人病）センター協議会加盟施設における5年生存率（2006～2008年診断例））

早期発見できればその後の生存率は高くなります

近年、20代・30代で子宮頸がんになる女性が増えています。

子宮頸がんになった人のうち、**47.9%は20代、30代**です。

（出典：国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策情報センター）

\*早期がんは「ステージⅠ」で発見されたがん、進行がんは「ステージⅣ」で発見されたがんとしました。  
ステージⅠは、がんの浸潤が固有筋層にとどまるもの、また領域リンパ節転移が1～2個にとどまるもので、がんの早期とされます。  
ステージⅣは、がんの浸潤が直接他臓器まで及ぶもの、また領域リンパ節転移が7個以上となるもので、進行したがんとされます。